

令和7年度 とうきょう すくわくプログラム 活動報告書

年間テーマ	「実る」を見つめよう！
園名	台東区立富士幼稚園
所在地	台東区浅草4-48-18
時期	5歳児 4月～3月

1. 活動のテーマ

「実る」を見つめよう！

<テーマの設定理由>

本園では、一人一鉢の夏野菜の栽培や、学級ごとの栽培活動にて様々な「実のなる植物」を育てている。その中で年齢なりの発見や、育てるための試行錯誤も体験している。昨年度から継続して、「実る」ということに焦点をあて、長期的な観察や栽培活動を通じた、探究活動を実施することとした。

2. 活動スケジュール

- お米を育てよう！ 6月
 - ・毎日食べる米の栽培について興味をもつ。
 - ・稲の栽培について知る。
 - ・稲を植え、育てる。
 - ・稲の生長に気付いたり、疑問をもったりする。 9月・10月
 - ・稲の生長を喜ぶ。→収穫へ 11月
 - ・収穫した米を食べられるようにするためには？ →干す・脱穀・精米 1月
 - ・自分たちで育てた米を食べよう。 2月
- 野菜を育てよう！
 - ・季節に応じた野菜（ナス、ピーマン、キュウリ、小玉スイカ、カボチャ、サツマイモ）や花（朝顔、風船カズラ）の栽培
 - ・収穫した野菜を食べよう。

3. 活動のために準備した素材や道具(・)、環境の設定(※)

- ・お米他栽培物に関する絵本や図鑑
- ・野菜や稲の苗、土、プランター、バケツ、防虫ネットや蚊帳等
- ・キッズカメラ（5歳児）故障や紛失防止のためにストラップを付ける
- ・デジタル顕微鏡（5歳児）
- ※稲の栽培について詳しく知る。（オンラインで現地の方に教えていただく）
- ※ジョウロなど世話がしやすく、手の取りやすい場所に置く。
- ※キッズカメラやデジタル顕微鏡は扱いや約束事を全体で確認し、使いやすいように5歳児保育室内に設定する。

4-1 探究活動の実績

<活動の内容>

○お米を育てよう！

- ・稲作についての図鑑や絵本を見る。
- ・姉妹都市である宮城県大崎市の方から、稲の栽培方法についてオンラインで教えていただく。
- ・土作り、苗植えをする。
- ・水がたまるようにしておくなど、夏野菜の栽培との違いに気付きながら世話をする。

○野菜を育てよう！

- ・夏野菜(ナス、ピーマンなど)、冬野菜(ブロッコリー、ダイコンなど)の苗植えをする。
- ・毎日の水やりなど世話を通して生長の様子に気付かせ、自分で世話をする嬉しさや収穫の喜びを味わう。

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

6月初旬に稲の苗が届き、苗を届けてくれた大崎市（台東区の姉妹都市）の方から Zoom で育て方の説明を受ける（4・5歳児）。5歳児は昨年度も取り組んでいたこともあり、稲の育ちについておおよその予測はできている様子であった。いざ苗植えをし、毎日水やりをしていく中で、バケツに溜まっている水が全面緑色になっている（藻が生えている）ことに幼児が気付く。「緑になってるよ！」と周りにいた友達や教師に知らせ、「なんでだろう？」と皆で首を傾げる。「背もまだ伸びないね」とつぶやく幼児もいる。土を再利用したことが昨年度との違いとしてあったため、「実は土が前にも使った古い土なんだけれど、それは関係あるかな？」とつぶやく。そこから、試しに土を新しいものにしてもう一度苗を植えてみることに。

新しい土を入れたバケツに苗を植え、水を入れると土が水を吸ってぶくぶくする。「水いっぱい飲んでるね！」「前はこんなに飲んでなかった！」と、新しい土は水をよく飲んで蓄えられることが分かる。

新しい土のバケツ稲と、古い土のバケツ稲をどちらも並べておくと、水の吸い具合や稲の伸び具合が違うことがはっきりと目で分かり、稲を育てる上で土が重要な役割をしていることが実体験として分かった。教師は、幼児が米粒一粒一粒をより大切に食べるようになることを願い、「お米を育てるのって本当に大変なんだね。もっと大切に食べよう。」とつぶやいた。稲や野菜を自分たちで育てて食べていることが影響してか、4歳児の間は食べ残しや好き嫌いがよく見られたが、1学期後半からは、完食する幼児、おかわりを希望する幼児が増えてきている。



春に植えた栽培物が大きくなってきたことで、幼児の関心や生長への期待も高まってきた。新しいアイテムとして、「いいこと発見したらこのカメラで撮ってみてね」と教師がキッズカメラを提示した。「お宝写真～」と言いながら戸外へ出たり撮ったものを友達や先生に見せたりして喜ぶ。カメラは2台用意したが、「5枚撮ったら交代ね」と自分たちで約束事を決めながら使用する姿が見られた。



↑ <幼児が実際にキッズカメラで撮影した写真>
※写真はまとめて定期的に保育室に掲示し、幼児が
振り替えられるようにしている。

5-1 振り返り

- ・関心が高まっているタイミングで新たな道具を取り入れることで、より「実を見つめる」きっかけになった。また、キッズカメラで撮影した写真を掲示することで、自分たちで生長や発見したことを振り返る姿も見られた。
- ・稲づくりでは、昨年の土を再利用したところ苗が育たず、新たな土に植え替えたことでぐんぐん育ち、土の重要性を知るきっかけとなった。また、昨年の土のままにしたバケツ稲も残しておくことで、継続的に新しい土との生長の違いを見たり不思議がったりする姿が見られた。

4-2 探究活動の実績

<活動の内容>

○お米を育てよう！

- ・稲作についての図鑑や絵本を見る。
- ・水がたまるようにしておくなど、夏野菜の栽培との違いに気付きながら世話をする。
- ・水抜きをし、収穫する。
- ・干す、脱穀などの工程を経て、収穫の喜びを味わう。

○野菜を育てよう！

- ・春に植えたさつまいもの収穫をする。
- ・冬野菜(カブ、ダイコン、キャベツ)の種まき、苗植えをする。
- ・毎日の水やりなど世話を通して生長の様子に気付かせ、自分で世話をする嬉しさや収穫の喜びを味

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

○お米を育てよう！

茶色の稲穂が垂れ、膨らんだ米粒がたくさんついていることに幼児が気付く。教師が「顕微鏡で見てみる？」と声を掛けると、「取っていいの!？」と喜ぶ。茶色と緑色のものを数粒取り、保育室内の顕微鏡で観察しようとする、周りの幼児も興味を示してやってくる。茶色の米粒の皮をむくと、透明な米粒が入っていることに気付き、「かたい!」と言いながらさらに顕微鏡でじっくりと見たり、米粒をつぶそうとしてみたりする。緑色の方は皮をむこうとするとつぶれて白い液が出てくることに気付く。「まだ粒じゃないってことだね」「おこめのジュースが出てきた!」と思ったことを言葉にする。この時の気付きから、稲穂が全部茶色になったら収穫しようということになる。



稲刈り後、教師が稲株を抜こうとすると、新しい土の方は稲株を引っ張るとバケツごと持ちあがるのに対し、古い土の方は引っ張ると稲株がするりと抜けてしまう。その様子に幼児が気付いて面白がり、真似して他のバケツ稲でも試してみる。「古い土は弱いんだね」、「新しい土の方は根っこが強いんじゃない?」などと気付く姿が見られた。



稲刈り（根本をハサミで切る。
4歳児が穂先を支える。）



脱穀（牛乳パックの口元に挟んで
引っ張る）

○野菜を育てよう！

5月に苗植えをしたさつまいもの収穫をし、葉っぱを取った芋づるを巻いてリースにする。収穫をした芋は全園児でふかし芋にして食べ、いくつかの芋はよく見ながら描いてみる機会とした。



芋を描く前の導入で、教師が芋の形やひげをクレヨンで描いた後、「芋のからだの色クレヨンにある？」と問いかけると、「ない」と答える。「そうだね。じゃあ年長だし、作っちゃおうか。」と教師が言うと、「えー！無理だよ」「絵の具で混ぜたらいいんじゃない」と声があがる。「そうそう！いいねえ！みんなならつくれるよ！」と言い、絵の具セットを用意する。（色は、「赤っぽい紫っぽい感じだから赤と紫と青が必要」「土の茶色とか黒も必要」「ちょっと黄色っぽいところもある」との声から、赤・紫・青・黄・茶・黒色の絵の具を用意）クレヨンでそれぞれに芋の形やひげを描き、パレットに色をのせる。芋をよく見ながら絵の具の色を混ぜていき、「今色の研究やってる」と言いながらじっくり色づくりに時間をかけたり、茶色を混ぜすぎたことで思ような色にならず、「なんか土になっちゃった」と言ってもう一度色をつかったり、考えたり気付いたりしながら色をつくって塗る姿が見られた。翌日、水色の背景にそれぞれの芋をつなげて貼ったものを設定しておき、つる（黄緑・緑・紫のマスキングテープ・紙テープ）と葉（黄緑・緑の色画用紙）をつなげて芋畑づくりを楽しんだ。



外遊びをしている際、教師が何気なくキャベツを覗いていると、幼児が近づき、「あ！また水がたまってる！落とさなきゃ！」と言って、葉を指で押さえながら、窪みに溜まった水滴を滑らせて落とす。「なるほど〜。お水は葉っぱじゃなくて土にあげるといいんだもんね、気付いてくれてありがとう」と教師が言うと、「これいつもやってたんだよ」と誇らしげに言い、恥ずかしくなったのかすぐにその場から離れる。



5-2 振り返り

- ・米作りでは、1学期に続いて古い土のバケツ稲と、新しい土を入れたバケツ稲の両方を育てることで、土が稲にとってどれほど大事か実感する機会となった。
- ・今までの栽培活動を通して、「大きくなるためには水が必要」、「水は土にかけると良い」、「収穫は楽しい」など様々な実体験をしてきたことで、自分たちで気付いて育てようとする姿につながった。

令和7年度 とうきょう すくわくプログラム 活動報告書

年間テーマ	「実る」を見つめよう
園名	台東区立富士幼稚園
所在地	台東区浅草4-48-18
時期	4歳児 4月～3月

1. 活動のテーマ

「実る」を見つめよう

<テーマの設定理由>

本園では、一人一鉢の夏野菜の栽培や、学級ごとでの栽培活動にて様々な「実のなる植物」を育てている。その中で年齢なりの発見や、育てるための試行錯誤も体験している。昨年度から継続して、「実る」ということに焦点をあて、長期的な観察や栽培活動を通じた、探究活動を実施することとした。

2. 活動スケジュール

○ソラマメを育てよう！

- ・ソラマメに興味をもつ。（種に触れる、絵本を見るなど）
- ・ソラマメの種を植え、育てる。
- ・ソラマメの生長に気付く。
- ・ソラマメの生長を喜び、収穫する。
- ・ソラマメの水やりや観察をする中で、疑問をもつ。
- ・自分たちで育てたソラマメを食べる。

○野菜や花を育てよう！

- ・年少児から引き続き育てている野菜（イチゴ、人参）や、季節に応じた野菜・花（人参、ミニトマト、大実トマト、枝豆、ポップコーン、コスモス、マリーゴールド）を栽培する。
- ・収穫した野菜を食べる。

3. 活動のために準備した素材や道具(・)、環境の設定(※)

- ・栽培物に関する絵本や図鑑
- ・栽培に必要な種、苗、土 等
- ※子どもたちが見やすく世話をしやすい場にプランターを置く。
- ※ジョウロや水は世話がしやすく、手の取りやすい場所に置く。
- ※興味・関心が広がるように図鑑や絵本の提示をする。

4-1. 探究活動の実績

<活動の内容>

○ソラマメを育てよう！

- ・ソラマメに興味をもてるように種に触れたり、絵本を見たりする。（3歳12月頃～）
- ・ソラマメの種を植え、水やりをする。
- ・ソラマメの生長に気付き感じたことをつぶやいたり教師や友達と一緒に喜んだりする。
- ・ソラマメの茎が倒れてきたことから、教師と一緒に支柱を立てたり肥料をあげたりする。（3歳1月）
- ・ソラマメの生長に喜び、世話をする。（4歳4月）
- ・実がなっていることに気付き収穫をする。自分たちで育てたソラマメを食べる。（5月）
- ・継続してソラマメの水やりや観察をする中で、疑問をもつ。（5月）

○野菜や花を育てよう！

- ・夏野菜(ミニトマト、大実トマトなど)、花(コスモス、マリーゴールドなど)の苗植えをする。
- ・毎日の水やり世話を通して生長に気付き、自分で世話をする嬉しさや収穫の喜びを味わう。

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

○ソラマメを育てよう！

年少の頃に育てていた栽培物を新しいクラスの靴箱近くに移動しておく。進級時、子どもたちは「（ソラマメの茎）のびてる！」、「イチゴ大きくなってよ」など変化に気付き教師や友達に伝えて喜びあう。教師は幼児の言葉を受け止めながら、「みんながお水をあげたらもっと大きくなるかな、食べられる日が楽しみだね」と期待や喜びに共感していく。

（年少）肥料をあげたり支柱をさしたりしている。



（年中）水やりや観察をしている。



○ソラマメを育てよう！

5月、水やりをしていた幼児が「もうこんなに大きくなっているよ」とソラマメの実が大きくなっていることに気付く。周りにいた幼児も「こっちにもあるよ」と次々に生長したソラマメに気付き、収穫することになる。「（取る際）硬いね」、「ここざらざらしているよ」、「先生あけて！うわぁ、ふわふわだ」と感じたことを言う。教師は幼児の言葉を受け止めたり共感したりする。また、「そらまめくんと一緒だね、どんな匂いがするかな？」と嗅いでみると、幼児も真似て嗅いだり触ったりする。教師の言葉から学級の絵本棚から絵本を持ってくる幼児もあり、みんなで収穫したソラマメと見比べながら感じたことや気付いたことを伝えあった。その日収穫したソラマメを昼食時に食べた。普段口にしない幼児も自分で育て収穫したソラマメであることから進んで自分から食べていた。



収穫後遊びの時間では、「ソラマメ研究所を作ろう！」と幼児3人が主となり場を作り出す。豆が載っている図鑑や絵本を並べ、剥いた皮や豆は観察できるようになっている。（年長児の虫研究所から刺激を受けて遊びだした。）

2日目も同じように環境を作り遊び出す。教師は見学者となり研究スタッフである幼児とやりとりをしたり観察をしたりする。「ソラマメってどうやって大きくなるんですか？」と聞くとプランターまで案内してくれ、「水をあげます、高く伸びるんですよ、ここにソラマメがついてます」などと知っていることや気付いたことなどを説明してくれる。その時、緑の小さい虫がたくさんついていることに幼児が気付き、「大変大変！なんだろう！研究しなくちゃ！」とアブラムシについての研究が始まる。本で調べたり先生に聞きに行ったりとその後も不思議に思ったことや気付いたことなど自分たちで調べたり周りの幼児に知らせたりする姿が見られた。



振り返り

- ・目に留まりやすい場所にプランターを置いてあることで、世話や観察がしやすかった。そのおかげで生長の変化に気付き収穫する喜びにもつながった。
- ・3歳の頃は教師に伝える姿が多かったが、4歳になり友達とのつながりが充実してきたことで、気付いたことや感じたことなど友達同士で伝えあう姿が増えていた。
- ・絵本や図鑑といった視覚的教材があることでより関心が広がった。
- ・栽培の中でイチゴと枝豆は食べられるまで育ちきらなかった。その中で4歳児なりになぜだろうと疑問に感じたり、「○○だからじゃない？」と予測したりする姿があった。

4-2. 探究活動の実績

<活動の内容>

○野菜や花を育てよう！

- ・コスモス、マリーゴールドを育てる。
- ・アネモネの球根、玉ねぎの苗植え、ホウレンソウの種を植える。
- ・毎日の水やりや世話を通して生長に気付き、自分で世話をする嬉しさや収穫の喜びを味わう。

○花を使った色遊び

- ・育てたマリーゴールドや園内で咲くオシロイバナを使って色水遊びをする。
- ・水に色がつく面白さや植物によって色の出方が違うことに気付き繰り返し遊ぶことを楽しむ。

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

① 野菜や花を育てよう！

1学期に植えたポップコーン。形が変わらないことに気が付いた幼児が、近くにいた友達や教師に伝える。「最近水あげてなかった…」「どこにトウモロコシができるの？」「そろそろできたんじゃない？」等、見て感じたことや疑問に思ったことを各々言う。その場にいた幼児と話す中で収穫してみることに。学級全体に知らせ皆で収穫してみると小さく育ちきらなかったトウモロコシが出てくる。『なぜ大きくならなかったのだろう？』と教師が問いかけると「水やりしてなかったから…」「太陽があたると大きくなるよ」「イチゴの時と同じだね」「暑かったのかな」など思ったことや予測したことを呟く。今回気付いたことをその場で全体に共有、共感しながら次は何を育てようか、その野菜はどうやって育てようか、どこで育てるとよいのだろうか等、今回の件を活かし、次に向けて考えるきっかけとなった。



② 戸外で遊んでいた幼児が「柿の種が落ちていた！植えたい！」と教師に報告。柿の木は大きいから広い場所が必要と話を聞き、テラス前の場所に埋めることになる。「柿できるかな～」と植えた後はすぐに水をあげ楽しみにしている様子。その後も花の水やりをしているとふと思い出しては時々水をあげて柿の木ができるのを楽しみにしている。



③ オシロイバナやマリーゴールドを使って色水遊び。クレープ紙と違いよく擦らないと色が出ない。色の出方も少しずつのため、色の変化や花や葉によって色の出やすさが違うことに気が付き繰り返し色を作ることを楽しむ。



振り返り

- ・今までの経験や不思議に思ったことを周りに伝える姿が見られ、次はどうするとまいくのだろうと学級で考える機会となった。
- ・年長児の姿に憧れや刺激を受けている姿が多く、育てている野菜や水やりのタイミング、色水遊びなど様々な場面で「月組さんがやっていた、使っていた」など気付いたり、覚えて真似たりしている。教師は活動の中で『なぜそうするの？』、『どうすればよい？』など声を掛けたり一緒に考え調べたりしていく中で、行動に目的や根拠をもてるよう支えていきたい。また、関心が広がったり深まったりできるような関わりを大切にしていきたい。

令和7年度 とうきょう すくわくプログラム 活動報告書

年間テーマ	「実る」を見つめよう！
園名	台東区立富士幼稚園
所在地	台東区浅草4-48-18
時期	3歳児 4～3月

1. 活動のテーマ

「実る」を見つめよう！

<テーマの設定理由>

本園では、一人一鉢の夏野菜の栽培や、学級ごとでの栽培活動にて様々な「実のなる植物」を育てている。その中で年齢なりの発見や、育てるための試行錯誤も体験している。昨年度から継続して、「実る」ということに焦点をあて、長期的な観察や栽培活動を通じた、探究活動を実施することとした。

2. 活動スケジュール

- 野菜を育てよう！
 - ・季節に応じた野菜や花の栽培
 - ・収穫した野菜を食べよう。
- お米を育てているところを見よう。
 - ・4, 5歳児が育てているバケツ稲を見よう。

3. 活動のために準備した素材や道具(・)、環境の設定(※)

- ・栽培物に関する絵本や図鑑
- ・栽培に必要な苗、土、肥料等 ・トマトの苗（矮性と高性） オクラの種 おじぎそうの種

※ジョウロ、カップなど世話がしやすく、手の取りやすい場所に置く。

4-1. 探究活動の実績

<活動の内容>

○野菜を育てよう！

- ・夏野菜(ミニトマト、)の苗植えをする。
- ・オクラの種とオジギソウの種を植える
- ・毎日の水やりなど世話を通して生長の様子に気付かせ、自分で世話をする嬉しさや収穫の喜びを味わう。

○お米を育てよう！

- ・4, 5歳が土を混ぜているところを見る。
- ・苗を植えているところを見て、触らせてもらう。
- ・バケツの土を触ってみる。

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>





○夏野菜を育てよう。(トマト)

自分のマークがついた鉢を探して、自分で土を入れる。

経験がない 3 歳児には、土を手で触ることが初めての幼児も多く、なかなか手を付けられない幼児が大半だった。教師が実際に両手でシャベルを作り、「お手々のブルドーザーだよ。ざざざざ～」とやって見せることで、真似してやってみようとする様子があった。しかし、どうしても触ることができなかつたり、手先でつまみながらほんの少しを土に入れるのが精いっぱいだったりする幼児には、教師が手を添えて一緒に行うことで、土を入れることができた。

苗植えも初めてなので、まずポットから苗を出すことが難しく、葉をむしってしまったたり、落としてしまったりする姿があったので、教師が手を取り一緒にポットから出して、土の上に置いた。周りに「土のお布団かけようね」と再度土を入れる際には、苗に土がかからないようにそっと周りに土を入れる様子が見られた。

そこから毎日の水やりが始まった。トマトは水をあげすぎないほうが良いことから、カップを用意し、カップ 1 杯をたらいからくみ上げて、水やりをするようにした。1 回水やりをただけでも、嬉しそうに、「見てみて、なんか大きくなった気がする。」「まだのどが渴いたよ～って言うているからもう 1 回やってもいい？」と聞いてきたりと楽しみながら、水やりをしたりする姿があった。

トマトが実をつける頃になると、「なんか丸いのがついている」「赤くないね～」と不思議そうに見ている姿があった。

今年度は、厚さが厳しく、虫がつき始めてしまったので、早めに自宅に持ってかえり、育ててもらおうようにした。「今日ね、お家でトマト食べたよ。おいしかったよ」と話してくれた。

矮性と高性トマトを育て、違いがあるか育てたが、実がなることに興味をもち、背の高さ以外は、実や葉の付き方の違いなどには至らなかった。(7 月実がなり始める頃には、暑くなりすぎていて、外に出てトマトを観察できる時間をとることができなかったためもある。)

オクラはプランターの土に教師が穴を開けたところに、幼児一人ずつに種を持たせて植えた。「水色だー」と嬉しそうに、種を植えていった。

数日後、芽が出てくると、「なんかでてきた～」「水色の帽子だ」と種の皮を脱いでいるところを楽しそうに表現していた。

○お米を育てよう!

4, 5 歳が行っている土づくりを見て、興味を示し、自分もやってみたいとやり始める幼児と、触るのも怖いというように黙ってみたり、触るのを嫌がる様子もあった。4, 5 歳が「お米を作るための土なんだよ」と説明してくれるが、たぶん意味は分かってないのだろうが、見よう見まねで同じようにやってみることを楽しんでいた。

苗植えも、初めて見るものであったが、やってみたい気持ちを優先したかったので、一つのバケツを雪組用として植えた。わからないことも多いかもしれないが、来年度 4 歳になり、これやったことあるという経験になるといいなと感じている。

振り返り

- ・実際に土に触る経験、植える経験、育てる経験などが初めてで、疑問に思うことは少なく、「こうなるんだ」と受け入れて、楽しんだ経験になったように感じる。
- ・実際にとれたものを食べることで、苦手なお野菜も一口だけ頑張ってみようと口にすることもできた。
- ・周りのものと比べるというよりも、自分のトマトがどうなっているのか、次はどうなるのか、いつ食べられるのか気がなっていた。それも 3 歳児なりの興味の持ち方で、探求なのではないかと感じる。

4-2. 探究活動の実績

<活動の内容>

○オクラを収穫してみよう。

・食べてみよう

・種を取ってみよう

○チューリップの球根を植える

○人参の種を植えてみよう。

○ブロッコリーの苗を植えよう。

・毎日の水やりなど世話を通して生長の様子に気付かせ、自分で世話をする嬉しさや収穫の喜びを味わう。

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

○ 9月、オクラの花が咲いていた。始めてみた幼児が「花が咲いているよ」と教師に声をかけてきた。一緒に触わりながら、聞いてみると、「なんかチクチクするね」と葉を触りながら話している。近くにいる幼児にも自ら声をかけて、触るように促している。それぞれに触り、ちくちく、ごわごわと楽しんでいた。

オクラが実り、みんなで食べてみることにした。茹でたてのオクラを輪切りにしてもらい、2枚ずつ渡すと、「星の形だね」「なんか入っているよ」と興味はあるものの、口にするのは苦手なようだ。食べられる幼児が「おいしい」と声をあげると、恐る恐る口に付けてみたり、食べてみようとする姿もあった。

人数分を収穫する間には、先にできたものが固くなるなど、食べるには至らないことが多かったが、触ってみることや固くなり、色が変わり、さらに固くなる様子を見ることができた。

さらに茶色に変化して物の中に黒い丸いものを見つけた。「タネだ」ともいい」と教師に聞いてきたので、取ってみることにする。中から始め飛んできた種を拾い集めながらとても大事そうに取っていた。「いっぱいあるね」「黒いね」・・・などそれぞれに感想を言いながら楽しんでいた。

○チューリップの球根を植える

土づくりをして、そのまま自分の鉢に土を入れる。2度目になると土に触ることに抵抗がなくなっている。自分の鉢にどんどん土を入れることも楽しんでいた。やはり転入園の幼児は触ることを嫌がり、なかなか土がたくさん入れられない。一度行ってた経験がよかったのだと感じる。

自分で球根を選び、埋めていく。年中組に手伝ってもらいながら、保育室前まで運んだ。

次の日、水やりの準備をしておく、靴を取り換える前に、水をやって、「目が出てないね」「まだかな」と目が出るのをとても楽しみにしていた。

やがて小さなつものような芽が出始めた。それを見つくと、「つものつものができた」と大喜びしている。まだ出てない幼児は鉢のあちこちに水をかけて、どこからつもの頭が出てきていないかを探している。その頭を見つくと、さらに水をかけて、土をへこませてつものを大きくしようとしている。大きくなるのを楽しみにしているようだ。





○ブロッコリーと人参を育てる

・苗で植えたブロッコリー、植えた次の日「先生、こんなに大きくなってよ」と呼ぶ声がしていた。驚いて行ってみると、昨日植えたものと変わりはないのだが、子供たちにはとても大きくなっているように感じたのだろう。

「ほんとだね、もっと大きくなるといいね。」と共感すると「もっと大きくなるようにお水あげよう」とは張り切ってあげていた。



振り返り

- ・前回の経験を踏まえて、土自体に抵抗がなくなっていたことに驚いた。水やりも自ら行う、また友達同士で、伝え合っていくようになってきた。
- ・実際にとれたものを食べることで、苦手な野菜も一口だけ頑張ってみようと口にすることもできた。
- ・1学期は、自分の鉢のトマト自体が気になり、周りと比べることが少なかったが、2学期は、○○ちゃんの角が出てきた。どうして自分のは出てこないのかと疑問に思ったり、悲しがったりしている言葉が多く聞き取れた。また出てきた喜びを感じ、さらに大きくするにはどうしたらよいかを考えて、周りを掘ってみたり、水をあげてみたりと試行錯誤している。3歳児なりに考えて、やってみようとする姿があった。